

# 鐘ヶ淵・向島

古くから村が開けた北部から、風流情緒の向島へ。由緒ある社寺や文人墨客ゆかりのスポットなどをめぐり、そしてゆったり墨堤散歩!

## 1 多聞寺

震災や戦災での焼失を免れた数少ない寺院。明和年間(1764~1772)再建の茅葺き山門は現存する建造物では区内最古。

## 2 旧鐘紡工場跡

明治22(1889)年創業の有限責任鐘淵紡績会社の工場跡地。近代工場の先駆けで、昭和44(1969)年まで操業した。

## 3 圓徳寺

慶長18(1613)年に文京区駒込の吉祥寺十三世離北良重和尚が開山したとされ、朱塗りの山門が目を引き曹洞宗の寺。

## 4 梅若公園

梅若神社境内が児童遊園となった公園。園内には大正2(1913)年に建立された榎本武揚の銅像が立っている。

## 5 木母寺

### 謡曲「隅田川」の梅若伝説で著名

貞元元(976)年に開山した天台宗の名刹。後に「梅」の異字体「楸」を「木」と「母」に分ち書して現在の寺号となったという。境内の梅若塚は都の旧跡。



## 6 成林庵(非公開)

臨濟宗妙心寺派の、区内では珍しい尼寺。開祖は高崎城主の安藤對馬守重博に仕えた老女の千代。開山は帰依していた山堂和尚。

## 7 正福寺

参道に宝治2(1248)年銘の都内最古の板碑が立つ。首から上の病に効験があるとされる首塚の地蔵堂がある。

## 8 隅田川神社

亀に乗った水神が浮洲に上陸し、隅田川総鎮守の神となったとされる。水神社とも呼ばれ、狛犬ならぬ狛亀が鎮座。

## 9 隅田稲荷神社(善左衛門稲荷)

土地の開拓者、江川善左衛門の子孫が伊勢参詣の折に災厄を救われ、建てたという。拝殿天井画は鴨下晃湖の作。

## 10 下茂稲荷

下総通りと上総通りの分かれ道にあり、火伏せ稲荷とも呼ばれた。2月の初午の日にはお参りの人で賑わう。

## 11 近代映画スタジオ発祥地

東洋一といわれた全天候型ガラスステージの日活向島撮影所があり、映画が制作されたが、関東大震災で倒壊し閉鎖。

## 12 東清寺(玉の井稲荷)

大正2(1913)年頃、大正道路工事の無事を願い、豊川稲荷の分霊を勧請した祠に始まる。観音、不動、稲荷を合祀。

## 13 啓運閣教会

関東大震災の被災者を弔う日蓮宗の寺院。境内に永井荷風が8ヵ月間通って描いた玉の井周辺地図の写しがある。

## 14 岐雲園跡

外国奉行を務めた岩瀬忠震の屋敷跡。死後、同奉行の永井尚志が買い取る。後に幸田家の所有となり、露伴も住んだ。

## 15 法泉寺

源頼朝の御家人である葛西三郎清重が両親の追善供養に建立した寺院。北斎の「寺島法泉寺詣」にも描かれた。

## 16 白鬚神社

天曆5(951)年、近江国の白鬚大明神を勧請したのが起こりという。貴重な社殿は放火で焼失し、再建されたもの。

## 17 向島百花園

### 野趣豊かな四季の花園

文化元(1804)年に骨董商の佐原鞠場(きくう)が開く。文人墨客の協力で360株の梅を植樹。その後も多彩な草木を植え、風雅な庭園として庶民に愛された。



## 18 旧墨堤の道

かつての隅田川の堤防の名残り。八代將軍吉宗により道の両脇に桜が植えられ、花見や七福神めぐりの行楽客で大いに賑わった。

## 19 子育て地蔵堂

文化年間(1804~18)に隅田川の堤防改修中に地蔵尊が発見され、庚申塔のある辻に祀ったのが始まりという。

## 20 蓮花寺

真言宗智山派の寺で、本尊は空海自筆と伝えられる弘法大師の画像。向島百花園の佐原家代々の墓がある。

## 21 幸田露伴旧居跡

幸田露伴の区内3番目の家があり、身一つで引越せるカタツムリにならい、蝸牛庵とした。現在は露伴児童遊園。

## 22 力石(伍大力)

江戸時代に力比べや曲芸に使った重い石。「四拾三貫目」(約161kg)、「伍大力菩薩」「寺島(島)村」と刻まれている。

## 23 大倉喜八郎別邸跡

財閥を築いた大倉喜八郎が、明治43(1910)年に建てた別邸で、対岸からも目立ったという。現在は千葉県船橋市に移築。

## 24 歌川豊広辞世狂歌碑

歌川派の基礎を築いた浮世絵師、歌川豊広の辞世の句を刻んだ碑。明治20(1887)年の60回忌に三世歌川広重が建立。

## 25 榎本武揚旧居跡

榎本武揚が明治38(1905)年から73歳で没する同41年まで暮らした屋敷跡。墨堤を馬で回る姿が見られたという。

## 26 成島柳北旧居(海楽園)跡

幕府の重臣から維新後は随筆家に転じ、活躍した柳北が明治11(1878)年から暮らした場所。庭には海棠が植えられていた。

## 27 長命寺

三代將軍家光が鷹狩りの折、急な腹痛に見舞われ、寺の井戸水で薬を飲んだところ、治まったことが寺名の由来。

## 28 弘福寺

勝海舟も修行をしたゆかりの寺で、禅宗の名刹。境内の咳の翁婆尊は口や喉の病に効くとされ、参拝者が絶えない。

## 29 秋葉神社

江戸時代に火伏せの神として諸大名や奥方らの信仰を集めた。6基の区登録文化財の石燈籠にその名残がある。

## 30 三囲神社

貴重な石碑の宝庫で知られる  
弘法大師が祀った田中稲荷が始まりという。三囲の名は、土中から発見された老翁像の周りを白狐が三度回って消えた縁起に由来。また、三井家ゆかりの神社でもある。



## 31 森鷗外旧居跡

鷗外の少年期の屋敷跡。付近を流れる曳舟川から「曳舟通りの家」と呼び、鷗外は牽舟居士の号を用いた。

## 32 高木神社

### 旧寺島新田の鎮守

応仁2(1468)年創建とされ、第六天社とも呼ばれた。旧寺島新田の鎮守で、境内の狛犬は左右同形で阿吽の区別がない。



## 33 正圓寺

応仁2(1468)年開基。上野寛永寺にあった浅野内匠頭奇連の三代將軍家光の墓前燈籠や正徳3(1713)年銘の庚申塔が残る。

## 34 木下川薬師道の道標

享保年間(1716~36)、八代將軍吉宗が木下川薬師への道沿いに建てさせたと伝わる。交通事情により現在地に移転。

## 35 三輪里稲荷神社

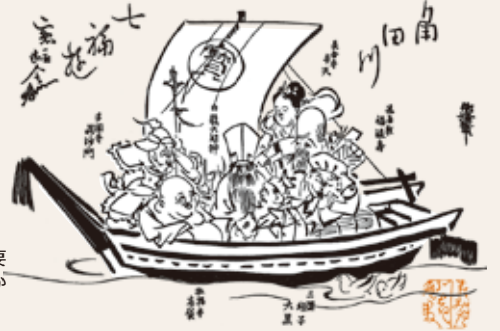
慶長19(1614)年、出羽国の羽黒大神の分霊を大畑村に祀ったのが始まり。木下川村、寺島村を含む三村の総鎮守。

# 隅田川七福神めぐり

## ここの寿老人は、寿老神

七福神を祀る寺社を、元旦から七日の松の内に訪ね歩いて開運を祈る、七福神めぐり。隅田川の七福神めぐりは江戸後期、佐原鞠場(きくう)が開いた向島百花園に集う文化人らによって始められた。  
そもそも、鞠場が所持していた福祿寿尊の陶像から話がふくらみ、近隣

の寺社から七福神を選定したという。このとき寿老人だけそるわなかったため、白鬚大明神を寿老人に見立てた。寿老人が、隅田川七福神めぐりにおいては「寿老神」となっているのは、そのためである。  
行程は約一里(約4km)で、墨堤の史跡も訪ねつつ迎える初春の行楽として、今日も多くの人に楽しまれている。



### 恵比寿神(三囲神社)

日本の神様。釣竿で必要なだけ魚を獲ることから、清廉を授ける。

### 大国神(三囲神社)

インドの神様で、打出の小槌で財福や食物を授ける。

### 福祿寿尊(向島百花園)

中国の神様で、道教で希求される幸福、金銭、長寿の三徳を備え、人徳や人望を授ける。

### 毘沙門天(多聞寺)

インドの神様で、四天王の一人。勇気や威厳を授ける。

### 寿老神(白鬚神社)

人の寿命を記した巻物のついた杖を持つ中国の神様。長寿や延命を授ける。

### 弁財天(長命寺)

インドの神様で、七福神唯一の女性神。財福、学問、芸術を授ける。

### 布袋尊(弘福寺)

中国に実在した禅僧。無邪気な欲がないおおらかな性格で、度量を授ける。

## 三囲神社の狐

稲荷神とされる宇迦之御霊神(うがのみたまのかみ)を祀る三囲神社の境内には狐にまつわるものが多い。本殿の屋根の四隅には1匹ずつ狐の像が置かれ、区の登録文化財に指定されている石造常夜燈の中台(ちゅうだい)にも狐と宝珠が刻まれている。享和2(1802)年に三井家が奉納した一対の神狐は、目尻が下がった様子から「三囲のおこんこんさん」と親しまれている。



本殿の屋根に置かれた狐像の留蓋(とめぶた)

## 墨田区・一般社団法人 墨田区観光協会

TEL : 03-5608-6951 FAX : 03-5608-7130  
Email : sumida@visit-sumida.jp http://visit-sumida.jp/